

2024年7月3日作成

第1.0版

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

急性脳炎の予後予測因子の探索

1. 対象となる患者さん

1990年1月～2024年6月の間に当院で急性脳炎の治療を受けられた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 脳神経内科 形岡 博史

3. 研究の目的と意義

急性脳炎は、起因ウイルスなど病態が多様であります。近年、神経細胞膜抗原に対する自己抗体が検出される自己免疫性脳炎が報告されつつありますが、ウイルス脳炎が疑われた脳炎のうち20%しか起因ウイルスが検出されず、実臨床では自己免疫性脳炎においても即座に診断できないことが多いです。治療におきまして、自己免疫性脳炎という新しい病態に対する免疫療法がこれまでの脳炎治療のターニングポイントとなりましたが、予後は依然として不良であります。急性脳炎の病因は50%しか検出できず、その病因が多岐にわたるため、実臨床ではその鑑別診断や初期治療の判断が難しく、その治療経過や予後予測することは極めて困難です。この研究は、カルテ情報を解析し、急性脳炎の起因ウイルスや自己免疫等の病態に繋がる臨床像や機能・生命予後の因子を分析いたします。この研究の成果は、急性脳炎の治療経過を予測し、治療経過でおきる併存症への早期対応が可能となり、困難である脳炎治療の一助に繋がることが期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、急性脳炎の起因ウイルスや自己免疫等の病態に繋がる臨床像や機能・生命予後の因子を特定します。

5. 使用する情報

診療情報：診断名・既往歴・精神症状の臨床像・精神症状から治療までの期間・意識状態・神経学的所見・診断手法・起因ウイルス・起因となった自己免疫・髄液所見（細胞数、蛋白）・頭部 MRI・頭部 CT 所見・脳波所見・臨床経過像（人工呼吸器使用と併発症、全身性痙攣等）・治療・転帰

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2026年3月31日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 脳神経内科 形岡 博史

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：hk55@naramed-u.ac.jp